

# 令和3年度さいたま市認知症の人にやさしい地域づくり推進委員会 会議録

1 日時 令和3年11月18日(木) 16時00分から17時00分まで

2 場所 WEB会議(さいたま市役所 西会議棟 第6会議室)

## 3 出席者

(委員)

田中 会長、花俣 副会長、飯野 委員、笹川 委員、黒川 委員、齋藤 委員、  
坪山 委員、鳥海 委員、新田 委員、松本 委員、丸木 委員、三谷 委員

(事務局)

高野いきいき長寿推進課長、高橋いきいき長寿推進課介護予防係長  
いきいき長寿推進課職員

## 4 欠席者

(委員)

坂井 委員、関口 委員

## 5 会議資料

- ・次第
- ・委員名簿
- ・資料1
- ・資料2

## 6 議事概要

### 【1 開会】

### 【2 いきいき長寿推進課長あいさつ】

(高野課長よりあいさつ)

### 【3 配布資料の確認】

(司会より配布資料の確認)

#### 【4 会議の公開等について】

○田中会長

それではこれより、令和3年度さいたま市認知症の人にやさしい地域づくり推進委員会を開会いたします。進行に当たりまして、各委員の皆さんのご協力をいただきながら進めて参りたいと存じますので、皆様どうぞよろしくお願ひいたします。

初めに、会議の公開について申し上げます。先ほど事務局より説明がありましたが、会議については原則公開となるところです。今回の委員会では、個人情報等に関する事項がないことから、会議を公開とすることといたしますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは本日の会議を公開とすることといたします。

また、本日、傍聴希望の方は何人いらっしゃいますか？事務局の方お願いします

○事務局 傍聴希望の方はおりません。

○田中会長

それでは本日、傍聴者がいらっしゃらないということですので、このまま委員会を進めていきます。

#### 【5 報告(1) 認知症初期集中支援チームの取組について】

○田中会長

本委員会は会議録を作成いたします。発言にあたっては私より指名した後、ご発言いただきますようご協力をお願いいたします。それでは報告(1) 認知症初期集中支援チームの取組について説明を事務局よりお願いいたします。

(事務局から資料1に基づき説明)

○田中会長

ただいま、認知症初期集中支援チームの取り組みについて、事務局から説明をいただきました。内容につきまして、委員の皆様よりそれぞれのお立場から、質問や気になる点等

のご意見等がありましたら挙手により発言をお願いいたします。いかがでしょうか。

はい、坪山委員お願いいたします。

#### ○坪山委員

よろしく申し上げます。勉強不足かもしれないので教えていただきたいのですが、まず、このチームの構成員とは、どんな形になっているのか教えていただきたい。あと、先ほど全国平均に比べて介入前の対象者は困難事例が多いということですが、今後、困難事例を乗り越えるために、構成員の構成を変えるとか、上手に介入されるにあたって何か考えてらっしゃることがあればお伺いしたい。最後に、なぜ困難事例が多いのかを教えてください。いただければと思います。お願いいたします。

#### ○事務局

事務局から回答させていただきます。まず、チームの構成については、市内を2区ごとに分けまして、それぞれを各病院さんに委託させていただいております。チーム員につきましては、その病院の看護師の方といった医療系の資格者や、社会福祉士といった福祉系の資格者のほかに、担当圏域の地域包括支援センターの方もチーム員という扱いになっております。また、委託している病院で認知症を見られている認知症サポート医の先生や、その病院に所属していなくても、地域の病院やクリニックに所属している認知症サポート医の先生もチーム員に入っております。そういった形でタッグを組んで、行政ももちろん協力しながら行っているものになります。

#### ○坪山委員

そうなんですね。構成としては、統制がとれているわけではなくて、それぞれの病院が、決められたということですね。

#### ○事務局

はい、主となるのは病院の方々だと思っていただければわかりやすいと思います。続いてですが、困難事例が少し多いというところを説明させていただきます。認知症初期集中支援チームの設置については全国の市町村に求められているもので、さいたま市もそれに基づいて設置していますが、相談窓口や設置場所は市町村によって様々となっております。さいたま市の場合は、住民の方が直接、病院のチームに相談する形はとらず、まずは地域の相談窓口であるシニアサポートセンター、つまり、地域包括支援センターに相談し、そ

ここを經由して病院のチームに相談という形をとっております。そうすると、病院のチームを頼らずとも、場合によっては、そのまま地域包括支援センターの方が解決できることも多々あるかと思えます。介護保険の申請の案内をして見守りサービスがありますよって、相談して済む場合もあります。

そういった面で、例えば住民から直接的にチームが相談を受け付けるような市町村と比べると、活動の件数が減る一方で、困難なケースが多いものと認識しています。

#### ○田中会長

ありがとうございました。その他、いかがでしょうか。丸木先生お願いいたします。

#### ○丸木委員

今の質問に、もうひとつお答えすると、さいたま市の地域包括支援センターはとっても優秀です。ですから、自分のところで解決できることはかなりあります。もともと、さいたま市はかなり早くから地域包括支援センターを充実させておりまして、地域包括支援センター自体の色々な研修や成績といったものも毎年かなり厳しく評価されています。そういうところが最初の窓口となっているので、難しいものしか病院の認知症初期集中支援チームには上がってこないと考えていいと思います。

#### ○田中会長

はい。ありがとうございました。もしよろしければ黒川委員、地域包括支援センターのお立場からアンケートの話がありましたが、関連するところでコメントでも結構ですがお願いします。

#### ○黒川委員

今、丸木委員にもお話いただいたとおりと思いますが、やはり地域包括支援センター自体が、色々な相談を受ける中で、自分達のセンターも含めてベテランの職員もいて、力をつけてきているのかと思います。やはり認知症の方は増えていて、重度の方も増えていらっしゃるのので、日々の相談を受けながら対応してきた結果だと思えます。私からはアンケートに住民の方や介護の関係者に対する事業の周知がさらに必要なのではないかということを書かせていただきました。私たちも周知していきたいなと思っています。

#### ○田中会長

はい、ありがとうございます。その他、委員の皆様いかがでしょうか。

次の議題もありますけれど、最後にお時間ありましたら発言を頂く機会も作りたと思います。

## 【5 報告（2）さいたま市認知症施策推進計画について】

### ○田中会長

それでは次の議題に進みたいと思います。（2）さいたま市認知症施策推進計画について、事務局から説明お願いいたします。

（事務局から資料2に基づき説明）

### ○田中会長

事務局からご説明いただきました。この内容につきましてご意見やご質問等がございましたら、挙手にてご発言をお願いいたします。いかがでしょうか。

（なし）

この計画についてという所ではなさそうですので、議題としては終了としたいと思います。

### ○田中会長

最後に、全体を通してご意見や日頃感じていること等の情報交換も含めて、時間を取りたいと思いますが、いかがでしょうか。はい、丸木先生お願いします。

### ○丸木委員

事例集って、とっても説得力あると思います。良いものができればと思いますが、この事例集は、一般の方にもお見せしてもいいようなものと市は考えていますか。

### ○事務局

事務局から回答させていただきます。こちらにつきましては、作成当初は、地域包括支援センターの方や、区役所の方と事例を共有するものと考えておりました。ただ、先ほど黒川委員からも、住民への周知啓発が重要であると意見もいただいておりますので、内容を精査しまして、個人情報をも特定がされない形で、一般の住民の方への公開も検討してい

きたいと考えております。

### ○丸木委員

とにかくこういう認知症初期集中支援チームがあるということ、住民が知っているほうが良いと思いますので、ぜひとも、一般の市民に公開できるような形で出していただくと、とてもありがたいなと思います。認知症疾患医療センターとして年2度の地域包括支援センターに参加してもらって連絡協議会もごさいます。次は2月に行いますので、その時に、この事例集は是非とも何らかの形で報告して、全部の地域包括支援センターにもしつかり頭に入れていただきたいと思っております。以上です。

### ○田中会長

丸木委員、ご意見ありがとうございます。その他いかがでしょうか。認知症の人と家族の会の花俣委員、お願いいたします。

### ○花俣委員

今日の会議の資料を読ませていただいて、コロナ禍の影響で認知症初期集中支援チームの相談ケースの減というのは否めないところですが、実に有効に機能しているというのが率直な感想です。また、特に事例集を読ませていただくと、本当に丁寧に対応していただいている、それぞれきちっと成果が出ている。我々にとっては心強いと思った次第です。また、評価スケールの結果のうち、Zarit8のところは大変大きな効果が出ている。これは、先ほどの8期の計画中の認知症施策推進計画の4本柱の中にある介護者への支援ということで謳われていますし、また62ページのところにはケアラー支援のことも少し出てきています。まさに介護者支援という視点で捉えていけば、埼玉県が全国に先駆けケアラー支援条例を作り、さいたま市でもケアラー支援条例を検討していただいているかと思えます。こういったところでも、この認知症初期集中支援チームの活動が繋がっていくことを期待しているところです。丸木先生に本当に牽引役をしていただいていると思えます。引き続き、ぜひよろしくお願ひいたしたいと思えます。

### ○田中会長

ありがとうございます。もう少しお時間あります。せっかくの機会なのでお伺ひしたいと思えますが、飯野委員、商工会議所の立場から認知症サポーター養成講座などが企業の方にも受けていただき広がっているかと思えますが、商工会議所の立場や企業、もしくは

個人の立場でも良いですが、サポーターの取り組みなどの施策を見ていてどのように感じますでしょうか。

### ○飯野委員

はい。商工会議所として積極的に関われるところは、やはりこの認知症サポーター養成講座の部分かと思います。積極的に関わらなければいけないところだなと思っていますが、実は、平成29年度に地域の商店街において講座を実施した経緯が過去にあります。ノーマライゼーションの切り口で、バリアフリーなどに取り組んでお買い物しやすい商店街を作って共生社会を実現していこうという趣旨のもと、地域支え合い事業という名称で北浦和にある商店会が取り組んだ事業です。その中で、認知症サポーター養成講座を開催したという経緯があります。実際に講座を受講済の店舗にステッカーを貼っていただくような取組を行いました。その後、別の商店街でも、講座を開催しようという動きがありましたが、コロナの感染が拡大してしまって話が立ち消えになってしまっているという状況です。

商工会議所としても、まちの構成員である商店、商店会さんなどが、誰でも安心して暮らせるまちを目指して、物を売るだけではなくて、様々なことに取り組んでいかなければならない、そういう時代になっていると思います。その取組の一環としても、町中に認知症サポーターを増やして認知症に対する正しい理解を深めていくこと、これが非常に必要だと思っていますし、大きな一歩になると思います。まずは、こういった講座があるということ、皆さん知っていただくことが重要だと思いますので、当会議所はありがたいことに、約1万2,000の会員さんがいらっしゃいますので、企業さんに情報提供することや働きかけを積極的に行っていきたいと考えているところです。

### ○田中会長

はい、心強いお言葉ありがとうございます。今、飯野委員の話も具体的にありましたが、地域という観点から、民生委員のお立場で鳥海委員よろしいでしょうか。日頃の活動で見守り活動等を通して地域の相談ごとを広く耳にしていると思いますが、お話を伺ってもよろしいでしょうか。

### ○鳥海委員

はい。鳥海といいます。よろしく申し上げます。今コロナ禍ということで活動がままならないところではありますが、私どものところでは小学校で認知症サポーター養成講座を開催していましたが、今年はそれも叶わず来年に期待するところでもあります。また、地域に

において介護予防事業、具体的には百歳体操や居場所づくりのための、ふれあいサロン事業を展開していましたが、昨年3月以降それも叶わなくなっています。ここで非常事態宣言が解除になりましたので、各地域で少しずつ、また開催を始めているようで、今後に期待したいと思っております。また、コロナ禍ということで活動できてない分、高齢者が自宅に籠っていて、「うちのお父さん、ちょっと認知症で変なことを言うんだよ」という事案もいくつか上がってきています。我々の活動をする上で、また何点か事案が発生してくるのではないかと危惧しております。

### ○田中会長

コロナの影響なども含めての地域の実情のお話がありました。ありがとうございます。もうお一人伺いたいと思いますが、薬剤師の立場でというところで、笹川委員に伺いますが、薬局の窓口で認知症の方がくる場合や薬局で業務する中で感じていること等ありますでしょうか。

### ○笹川委員

はい。今回から参加させていただいて、勉強させていただくことがかなり多いですが、今、さいたま市薬剤師会では、在宅介護委員会というものがありまして、その委員会活動の中に、薬局に来られた患者さんの中に、もし認知症が疑われるような患者さんがいらっしゃった場合、地域包括支援センターの方に一本連絡を入れるような、取組を始めているところです。実際、私の薬局でも、おつりを出すときにお札で出すことが続くような方や、今この時期だとマスクをして来客となりますが、それが何回も言っても理解してもらえない方、少し認知症が疑われるような方がよく来客されることが多いですけれども、そういう方に認知症という診断がついていなくて薬も出てなかったり、病院に通院されていなかったりする事例もあります。薬剤師会から働きかけさせていただいて、まず地域包括支援センターに連絡するような形の流れを作るような形で進めています。今回の認知症初期集中支援チームという形になるとやはり困難事例が多いと思いますが、その前段階で、どのような形で薬局が関わるができるのかというところが今後、取組として必要になるのかと感じております。

最後に質問ですが、事例集は最終的にどこに配られるものですか。

### ○事務局

事例集は最終的に公表できるものになりましたら、市のウェブサイト等での公開や、関



係団体等には配布を考えているところです。

#### ○田中会長

そろそろお時間ではありますが、よろしければ作業療法士会の斎藤委員、認知症の方やご家族含めて、支援の状況等をお知らせいただければと思います。

#### ○斎藤委員

作業療法士会では地域リハビリテーション活動支援事業で、最近、認知症に関する講話の依頼が増えている状況にあります。その中で認知症予防に関するお話として、認知症にならないためにどうすれば良いかに皆様は興味があります。しかし、どちらかと言うと認知症にならないというよりも認知症になっても、その人らしく生きるということと、予防よりも共生という言葉を強調してお伝えします。そういったところで、リハ専門職をご活用いただければと思います。あとは私自身、認知症初期集中支援チームのチーム員もさせていただいておまして、その中で事業周知がまだまだかと思います。私の周りでも、ちょっと恥ずかしいのですが、認知症初期集中支援チームの名前を知らないという方がたくさんいらっしゃいますので、これからの事業周知も大事かと思います。埼玉県地域包括ケア課で、アニメを作られているかと思いますが、その中で、介護予防や地域ケア会議についての、すごくわかりやすいアニメがあるので、可能であれば認知症初期集中支援チームのアニメも作っていただけて周知いただけるとすごく良いかと思います。

#### ○田中会長

ありがとうございます。貴重な状況を教えていただきありがとうございます。今後、どう伝えていくのか検討が必要かと思います。ありがとうございます。

そろそろお時間になってきましたので、このあたりで終わりにしたいと思います。皆様ご協力いただきましてありがとうございました。